



麒麟

大田区立松仙小学校
令和2年9月25日(金)
裏研究推進だより 第15号
2学期担当

9月16日(水)6年生話題提供授業 協議会(指導・講評)記録

講師：国土館大学 文学部教育学科
教授 細越 淳二 先生

運動もつよさとは?・・・「運動で〇〇つくり」

〇〇に入る言葉は?(ひらがな3文字)

からだ? なかま? いよく? ころ? やるき?
こんき? るうる? えがお? きりつ?

↓

からだ

・体力 ・健康 ・動き

あたま

・思ったことができるようになるには?と考える。
・アドバイスの仕方、できるようになる伝え方を考える。

ころ・なかま

・ルール作りにもつながる。
・クラスの集団意識が育つ。 ・協力、声かけ。
・うまくいかなかったときの気持ちの消化の仕方や励まし合い。

できるようになるプロセス

認識する→やってみて定着する→自動化する

・だからこそ、休み時間など触れる機会を多く設けて日常化を図っていく。
・それが結果としていろいろな形につながっていくようにする。

体力テストでどうしても記録が上がらないものは?

・ソフトボール投げ ・握力
(50メートル走や立ち幅跳び(男子)もあまり上がらない。)

なぜ?

→生まれながらにもっている力によるものが大きい。
また、生活環境によるものが大きい。

→だからこそ、場の設定を工夫して育てていきたい!

投の運動

新学習指導要領の「内容の取扱い」に「投の運動(遊び)」を付け加えて扱うことができると示された。

目指すところは2つ

①投の粗形態の獲得

→プロのようにできなくても、粗々でよい。
②遠投能力の向上
→地肩の発揮。

付け加えられる領域

・陸上運動 ・ボール運動 ・体づくり運動
※それぞれ領域の目標に準じて目指す姿は異なる。

今日の授業から

「振り子投げ」はいつも意識させたい

・ペアの子が「振り子投げ」のかけ声をかけるルールにする。
→対話/声のキャッチボールになる。
・子供たちが言いやすいものにする。
例:「ひらいて パタン とんで いけ!」
→自分で作るリズムは浸透する。
⇒「そのリズムを生かしたからうまく投げられた!」が見えるようにする。

教具

くるくるボールの使い方

※ボールごとにネットを玉結びする。

・一番下のボールを持って、スナップを感じながら投げる。
・うまく投げられたら「ナイスくるくる!」と声かけを♪

評価

KR (Knowledge of Results): 結果を見て評価

KP (Knowledge of Performance): 動きを見て評価

→伸びにつながっていたらOK!

おおらかにいいところを伸ばせるように。

チャレンジタイムで達成感を

場ごとの達成基準があるとよい。

チャレンジタイムで記録が伸びていたか?

〈チャレンジタイムの工夫例〉

・スタートからゴールまで4人でつなげられるか。
・目標の飛距離までいくかどうか。達成した子は赤帽子、できなかった子は白帽子にする。白帽子の子に対して子供たち同士で積極的にアドバイスをする。
→「運動で仲間づくり」にもつながる。

先生のここがステキ

☆個別の声かけができていた。

→子供たちが安心して取り組んでいた。

☆場面転換は24場面。その中で、1時間の運動量は全体の52.7%!! (もっとたくさんあったようにも感じたけれど...)

→子供たちは授業時間の半分以上が運動時間だと楽しいと感じる。

子供たちの運動量を十分に確保していきたいと思!

ました。50%は、実は高い壁だと感じました。でも乗り越えて、子供たちの満足度も高めたいです！

また、フォームのかけ声のように、運動会のダンスなどでも、動きを例えた掛け声があると確かに覚えやす

いので、様々な活動の中でも子供たちと一緒に作っていき、「認識→定着→自動化（できた♪）」を図っていきたいと思いました。（担当）

キラリと光る付箋

成果

- ・「ひじ、よく曲げられてたよ。」「もっと手首だけじゃなく、ひじも引くといいよ。」など、互いにそれぞれの課題を理解し、アドバイスし合っていた。
- ・テルテルボールでペアの子にアドバイスする言葉が具体的だった。これまでしっかり押さえてきた現れだろう。
- ・「振り子投げが自分に合っている。」と実感し、次回も取り組んで記録を伸ばそうとしていた
- ・できたか、できないか、記録の目安（コーン）がはっきりしていた場だったので、子どもたちが主体的に活動していた。

課題

- ・自分の課題よりもっと魅力的な拍手したくなるものないのかなあ（何のためにやっているのか）
- ・チャレンジタイムでは、記録のみの会話で終了していた。ポイントアドバイスがあるととってもいい。あと3回くらいチャレンジしたい
- ・記録ではゲーム性を持たせてもいいと思う。

【以下、多分体育部の先生】

- ・課題解決でペアが一度解体するのは勿体ない。「場」でペアをつくっては？
- ・振り子、投げ、振り子、投げ以外の手立てや、オノマトペの活用も考えられるのでは？
- ・くるくるボールの場はスナップの他に、投射角、リリースの位置も意識する必要があった。

参観していた体育部の先生の付箋は、やはり専門的に研究しているだけあって授業を見る視点に専門性を感じました。成果にしても課題にしても、なるほどなと感じるものが多かった。

また授業の中で、体の動きをイメージしながら試行錯誤を繰り返す活動には、図工との共通点もあるなと感じました。（担当）

協議会記録担当の先生、提案授業をしてくださった先生ありがとうございました。開催自体が心配された研究授業でしたが、皆さんで授業について協議できる貴重な機会となりました。私は、前任校で体育の研究を行ったときに、当時の講師をしてくださった白旗先生から「とにかく運動量！」と繰り返して指導いただいたのが記憶に残っています。今回の授業では、運動量だけでなく先生の一人一人の状態を捉えた声掛けが素晴らしいなと感じました。次回授業者として、今回の学びを生かしていきたいと思えます。（担当）